

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
			○			

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	思春期保健連絡会の設置
-----	-------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	思春期の心身の変化を正しく理解し、自分自身の心と体を大切にする健康教育を推進するため、医療・学校・地域・行政等の関係者による連絡会を開催し、現状の把握や課題の共有および連携強化を図るとともに、思春期保健の対策等について協議します。協議の結果等を踏まえ、思春期の健康教育を効果的に実施します。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	母子保健

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	連絡会の開催 プログラム等の作成 モデル教室の実施	連絡会の開催	連絡会の開催	連絡会の開催	連絡会の開催	連絡会の開催		
		これまでの進捗状況・今後の予定	連絡会の開催 性教育関連教材集の作成 支援体制の仕組みづくりの検討	連絡会の開催 モデル教室の開催 支援体制の仕組みづくりの検討	連絡会の開催	連絡会の開催	連絡会の開催	連絡会の開催		
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		10代の人工妊娠中絶率の低下				計画	低下	低下	年度	平成26年度
		性に関する正しい知識を普及することで、思春期の性感染症や意図せぬ妊娠の減少を図ります。				実績	平成24年度秋に確定	平成25年度秋に確定	内容	低下
						達成度	%	%		
						計画			年度	
						実績			内容	
					達成度	%	%			
コスト					事業費	2,801 千円	3,300 千円			
					うち一般財源	千円	千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	思春期保健の関係者による連絡会を開催し、思春期の課題を共有するとともに、教育現場で活用できる性教育関連イラスト教材集の作成や支援体制の仕組みづくり等について協議しました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	思春期の問題について、関係機関が連携し、思春期の心身の変化を正しく理解し自分自身の心と体を大切にする思春期保健の推進は重要です。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	様々な関係団体との連携強化を図ることで、より効果が高くなります。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	10代の喫煙や人工妊娠中絶など、思春期の問題が顕在化していることから、早急に取り組む必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	保健、学校、医療等の思春期保健に関わる機関が連携するためには、市の関与が不可欠です。
	今後の方向性 評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。		ウ	関学校において、「性教育関連イラスト教材集」を活用したモデル教室を実施し、検証します。その結果を踏まえて、実施方法や教材集の充実を図ることにより、効果的な思春期の心とからだの健康教育を推進します。 併せて、保護者に対する啓発や支援体制の検討を行い、思春期の問題を減少できるよう取り組みます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	作成したプログラムを実際に活用し、その結果を検証するとともに、支援体制の仕組みづくりを検討します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	思春期健康づくり事業
-----	------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	生命の尊さを学び、健全な子どもの心と体の発達を促すため、思春期の子どもとその保護者に対して、学校教育や地域との連携を図り、子育て体験学習、性教育などの機会を通じて、健康、性、心の問題などについて幅広い知識の普及を図ります。				
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	母子保健			

目的実現の為に実施する内容 【手段】	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施		
		これまでの進捗状況・今後の予定	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施		
	実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標	
		10代の人工妊娠中絶率の低下				計画	低下	低下	年度 平成26年度
		性に関する正しい知識を普及することで、思春期の性感染症や意図せぬ妊娠の減少を図ります。				実績	平成24年度秋に確定	平成25年度秋に確定	内容 低下
						達成度	%	%	
						計画			年度
						実績			内容
						達成度	%	%	
	コスト					事業費	1,173 千円	2,257 千円	
						うち一般財源	461 千円	1,853 千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	学校と連携し、思春期の子どもとその親に対して、健康や性に関する知識の提供を行いました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4 : 高い 3 : やや高い 2 : やや低い 1 : 低い	4	思春期の問題が顕在化していることから、自分自身の心と体を大切にする健康教育を実施することは重要です。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	健康や性に関して知識の提供を効果的に行うためには、医師や助産師等の専門職の実施が重要です。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	思春期の問題が顕在化していることから、関係機関が連携し取り組む必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。		4	小学校区を担当する保健師が関係機関と連携し、実施していることから、市の関与が必要です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア：事業の見直しを図ることが可能 イ：休止・廃止を検討 ウ：現状のまま進めることが適当 エ：終了	ア	思春期の子どもたちが健やかに成長できるよう、今後も学校や地域関係者と連携しながら、健康教育を実施していきます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	今後も学校や関係機関と連携し、実施していきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--------------------------	----------------